



# 西尾市消防団

Nishio Volunteer Fire Department

わげ  
僕らが頑張る理由——

火災発生時や大規模災害時に出動し、消火活動や救助・救出活動など重要な任務に従事する消防団員。9月1日現在、西尾市では一色・吉良・幡豆地区の基本団と西尾地区の機能別消防団の4団に506人が所属。地域の安全と安心を守るため、本業の傍ら日々訓練に励んでいます。



日が暮れてから訓練が始まる

この日は約20人の団員が参加し、訓練部長の指示の下、ポンプ車の操作方法が行われました。「操法を練習することで基本の動きが身に付くし、火災現場で何をしたらいいか分かるようになる」。実際の出動時を想定し、引き締まった雰囲気での訓練は進みます。1日の労働後、疲れの残る中で訓練に励む団員たち。中には、訓練後に出動する団員もいます。「夜勤前なのに参加してくれるのはありがたい」と徳倉さん。全員が集中力を切らすことなく、1時間半の訓練時間が過ぎていきました。

## 夜

風が静かに吹き始めた午後7時前。一色消防団一色東部分団の分団長を務める徳倉泰広さん（一色町）は、いつもより早めに仕事を切り上げて消防団の詰所に向かいました。仕事着を脱いで紺色の活動服に袖を通し、訓練場へ。これから、週1回の消防団の訓練が始まります。



## 地域の人に恩返ししたい

一色消防団 一色東部分団  
徳倉泰広さん

人が入れ替わる消防団  
経験者が増えることが大切

多くの消防団員は、入団から5年ほど活動して退団します。団員の入団と退団が繰り返され、常に消防団の組織は変わっていきます。徳倉さんは「上下関係が厳しそうとか、古臭いしきたりが残っている印象があるかもしれないけど、人がどんどん入れ替わるからそんなことはない」と語ります。

新しい団員が加入すると、先輩の団員が機器の操作方法など、必要な知識と技術を訓練で教えます。「先輩



Eメールで送られてくる出動要請

たちは丁寧に教えてくれた。今は自分も同じように指導するように意識している」。火災や大規模災害が起これば、命に関わる危険な現場に出動するため、緊張感の漂う中で訓練は行われますが、パワハラなどはありません。

「多くの人が消防団を経験し、防災の知識を得ることが大切」と徳倉さん。災害発生時に何をすればいいのか、どこに防災倉庫があって、何が入っているのか。もしもの時、迷わず行動できる人が増えることで、地域の防災力が高まるのです。

自分の家族を守るために

「団員を勧誘するときは、消防団の存在意義や活動内容をしっかり説明している。多くの人に理解してもらうことで消防団が地域で認められ、入団者も増えるはず」と徳倉さん。

## 消防団で身に付く「大切な人たちを守る力」



お子さんと愛犬と休日をお過ごしする徳倉さん

丁寧な勧誘が実を結び、昨年度、近年では最多の7人が分団に入団しました。「地域のために」とか気負わずに、まずは『自分の家族が倒れたら助けてほしい』という理由でいい。大切な人たちを守る力を身に付けるために、ぜひ消防団に入団してほしい」。

「消防団として活動することで、普段からお世話になっている地域の人に恩返ししたい。業務中に出動するときも、会社の人たちは快く送り出してくれる。家族との時間も少し減るけど、みんな応援してくれている。しっかりと活動して、消防団の悪いイメージを払拭したい」と力強く語ってくれた徳倉さん。その大きな背中や、家族や地域の人たちの安全な生活を背負っています。

# もしも急に人が倒れたら… 傍観者ではいたくない

## 消防団のPRに大きく貢献

「消防団は泥臭く、宴会ばかりしているイメージがあったけど、入団してみると全然違った。風通しが良い組織だと思っ」。爽やかな笑顔で話してくれたのは、幡豆消防団幡豆第2分団に所属する加藤あゆみさん（江原町）です。消防設備点検の技術士として市内の会社で勤務しながら、月3回、消防団員として訓練に励んでいます。

人力で輸送でき、消防車両が入れない狭い場所でも消火活動ができる「可搬消防ポンプ」の運用責任者を務めたことがある加藤さん。「いろいろ自分で設定する必要があり、いじっ



幡豆消防団 幡豆第2分団  
加藤 あゆみ さん

「大変だけど、かつこいい」

ていると面白い」と話します。

「全国的に消防団員が不足している。いろんな人に興味を持ってもらうために、できることをやりたい」と、ラジオに出演したり、ポスターのモデルになったりして、消防団のPRにも大きく貢献しています。

全ての団員が普通救命講習会の講師ができるように

幅広く活躍する加藤さんは、消防署で行われる普通救命講習会の講師も務めています。「西尾市の消防団員全員が講習会の講師ができるくらい、救命処置の知識と技術を身に付けられるようにしたい。そのために、自

## 幅広く活躍する女性団員

分の経験を伝えていきたい」と加藤さん。また「違う団の団員ともっと交流して顔見知りになっておけば、大規模災害が起きたときに連携しやすいと思う」と今後の抱負を語ってくれました。

大変なこともあるけど…

「重い物を持ち上げることとかは男性の方が得意だけど、女性ならではのメリットもある。鳥羽の火祭りの警備をしているときは、男性の団員よりも私に話しかけてくれる人が多い。親しみやすい存在として、消防団の必要性を伝えていきたい」。団員になって7年目を迎えました。消防団活動に対する意欲はまだ衰えていません。「ときどき大変なこともあるけど、やっぱり消防団は好きだし、消防団員はかつこいいと思う。火災や災害が起こったときや、人が倒れたときに傍観者でいたくない」。真つすぐな思いを胸に、西尾市消防団を引っ張っています。



道を歩いていたとき、突然人が倒れたら。一刻を争う緊急時に手際よく対処できる人は、少ないのではないのでしょうか。また、大規模災害が起こったとき、あなたにできることは何ですか。「もしものとき『傍観者』ではいたくない」。そんな熱い思いで、消防団員は災害対応の訓練や救急法の普及に取り組んでいます。



機能別消防団 西尾北部分団  
筒井 栄一 さん

### 大規模災害に備えて

平成25年、県が発表した南海トラフ地震の被害想定で、西尾市は甚大な被害を受けると予測されました。改めて防災力を強化する必要性が叫ばれ、平成28年、半世紀近く消防団がなかった西尾地区に大規模災害時に消火活動などを行う「機能別消防団」が誕生。現在、16分団に約280人が所属しています。

### 30年間の経験を次世代に

機能別消防団西尾北部分団の分団長を務める筒井栄一さん(肴町)は、機能別消防団の結成前にあった西尾市自主防災市民消火隊時代から約30年も防災活動に関わっている大ベテ

誰かがやらなくちゃいけない

## 半世紀ぶりに西尾地区に誕生した「消防団」



ランです。「毎月、団員が集まって防災器具を点検している。機能別消防団が発足してから大規模災害に関する講習会に参加するようにになり、災害が起きたときにどう行動すればいいか知ることができた」。機能別消防団が結成されたことで、防災意識が高まったそうです。

近年は団員数が定員に満たず「担い手不足に困っている」と悩みを明かします。しかし「災害による被害を減らすために、機能別消防団は絶対に必要。誰かがやらなくちゃいけない。自分の知識や経験を若い人に継承していきたい」と強い決意で活動しています。

### 幅広い年齢層の女性が所属

「20代から60代までと団員の年齢はさまざま。でも、意見が言いやすい雰囲気だ。みんな仲が良い」。機能別消防団女性分団の羽田理恵さん(豊橋市)は、鮮やかなオレンジ色の活動服に負けない明るい表情で話してくれました。結団当初から所属し、豊橋市に引越した現在も、普通救命講習の講師や消防団の啓発活動の担い手として活躍しています。「倒れている人がいたら助けたい。地域に救命の知識が広まれば、安全・安心なまちになると思う。これからは、地域の人たちに普通救命講習を受けてもらえるように自分たちからどんどん働きかけていきたい」と話してくれました。

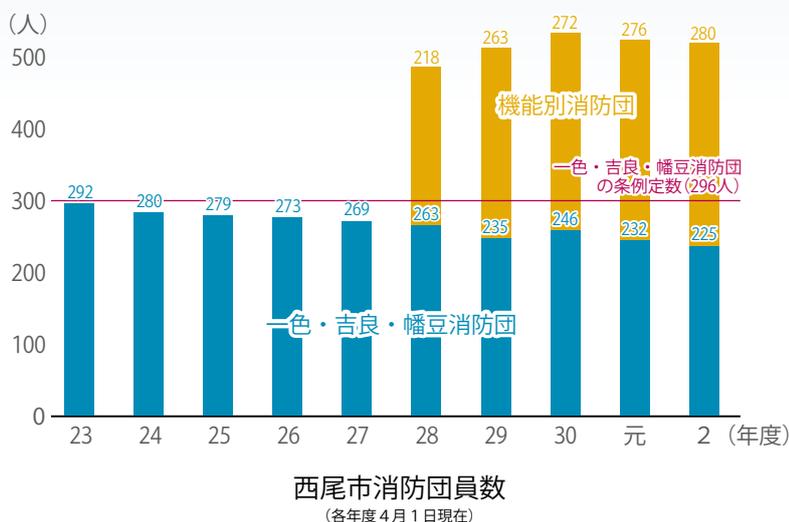


機能別消防団 女性分団  
羽田 理恵 さん

救急法を広めたい

# 減少する団員数 歯止めをかけるために

消防団員の数は年々減少しています。「どんな組織なのか分からない」と思う方が増えているのがその原因の一つかもしれません。市消防本部や地域の人は、団員を応援し、その活躍を広めることで、団員を増やそうと取り組んでいます。



団員を確保するために

「どの消防団も熱い気持ちを持つ

ネットに漂つ「悪い噂」

「パワハラがある」「勧誘が強引」「やめさせてくれない」「頻繁に飲み会があつて断れない」。インターネット上には、消防団の悪い噂がたくさん書き込まれています。悪い印象が広まっているためか、全国的に団員数が減っており、西尾市も例外ではありません。

## 悪い印象を変えたい

で、統制の取れた訓練を積み重ねてくれている」と語るのは、市消防本部の織田貴大主査です。「消防団が何をやっているのか分からない」という声をよく聞く。活動内容を知ってもらうことが必要」と、学校のイベントで消防団を紹介するなどの企画を計画。団員を増やすため、幅広い世代に消防団の活躍を知ってもらうと奮闘しています。

大規模災害が起きたとき、消防職員だけでは人手が足りません。市は消防団と一体となり、団員数の確保に向けて取り組んでいます。



大学生等活動認証状を授与  
吉良消防団 吉良第2分団  
犬塚涼太さん(西浅井町)

## 憧れの消防士になるため

人のためになる仕事がしたくて、消防士になりたいと思っています。夢に少しでも近づくために、消防団に入団しました。訓練ではポンプ車の点検など、貴重な経験ができています。放水訓練では、放水時の圧力が強くて驚きましたが、安定した姿勢が取れるように意識しています。

分団内では自分が最年少ですが、団員の皆さんは優しい方たちばかりで、学校の試験があるときは「頑張れ」と応援してくれます。

認証状を受け取れてうれしいけど、もっと頑張らなければという責任感も感じます。消防士になれたらいいけど、なれなかったとしても構わない。今は消防団活動に全力で取り組んでいます。



消防団応援の店に登録  
有限会社 富士見屋  
山岡孝典さん(一色町)

## 消防団は地域の誇り

えびせんべいなどを製造・販売しています。私自身、消防団に5年在籍していました。いろいろなことを経験し、防災の知識と技術、それにいざという時の度胸が身に付きました。西尾市の人口は17万人もいるけど、常備の消防職員は200人くらいしかいない。大規模災害が起きたときには、500人の消防団員と防災の知識を持つ消防団OBの力が絶対に必要です。

消防団応援の店として、1,000円以上購入してくれた消防団員にせんべいを差し上げています。消防団と団員は地域の誇り。いつも頑張ってくれている団員を、これからも応援していきたいと思えます。

## 消防団を支える取り組み

市では、消防団活動に協力的な事業所に表示証を交付する「西尾市消防団協力事業所表示制度」と、真摯かつ継続的に消防団活動に取り組む大学生などに認証証を交付する「西尾市消防団大学生等活動認証制度」を運用しています。今年8月には、初めての交付式が行われ「アイシン機工株式会社」「西尾信用金庫」「株式会社渡辺製作所」の3事業所と、吉良消防団の犬塚涼太さんに、それぞれ表示証と認証証が送られました。

## 団員へ感謝を込めて

また、11月1日時点で市内119の店舗が「西尾市消防団応援の店」として登録し、団員とその家族に特典を提供しています。

誰かがやってくれているあなたも、その誰かに

消防団で活躍する一人一人の団員は、仕事や家庭を持つ普通の人たちです。「消防団は地域のヒーロー」といわれますが、ヒーローではあっても、疲れを知らない、完全無欠の「スーパーマン」ではありません。普通の人たちが、自分のための時間や家族と過ごす時間の一部を犠牲にして活動しています。

特に西尾地区では、周りに消防団員がいない方がいるかもしれませんが、消防団が活動していない訳ではありません。地域のため、家族のため、自分のため。それぞれの理由があつて頑張っている消防団員が、このまちにはたくさんいます。

火災や大規模災害が起こったときあなたやあなたの家族の命を救ってくれるのは、消防団員かもしれません。頑張ってくれている団員に感謝して応援する人や、消防団に入団して活躍する人。そんな人が、一人でも増えることが、地域の安全・安心につながっていきます。

## 消防団員を募集



市ホームページ

**対象** 市内在住または在勤で18歳以上の方

**活動内容** 分団の定期的な訓練・点検、普通救命講習、出初式など

**待遇** 公務災害補償や報酬・出勤手当、退職報奨金、被服等貸与、表彰制度

**優遇制度** 「消防団応援の店」制度、消防団大学生等活動認証制度

**その他** 消防団員は非常勤特別職の地方公務員です。

**申込先** 市消防本部総務課(☎56・2110)

## 消防団応援の店を募集



応援の店一覧

消防団員カードまたは家族カードを提示した方に、値引きや粗品の進呈などの特典を提供していただく店舗を募集しています。店舗と消防団のイメージと、店舗の集客率を高める効果が期待できます。サービス対象を県内の団員にすることで、県のポータルサイトに登録されます。**申込先** 登録申請書を市消防本部総務課(☎56・2110/☎57・1738)へ。申請書は同課に用意。市ホームページでダウンロードも可